京都大学医学部保健学科紀要
健康科学　第1巻　2004

諸報告：臨床活動報告　—1—

京大病院での臨床活動報告

「女性のこころとからだの相談室」における活動報告

岡　島　文　恵

はじめに

「女性のこころとからだの相談室」での相談は，大きく分けて二つの対象および相談の方法で対応している。一つは京大病院産科分娩部の助産師が担当する，京大病院に通院する妊産褥婦のみを対象にする「ママ・ベビー相談」である。もう一つは京大医学部保健学科の教員が担当する相談で，広く一般の女性とその家族を対象とする「女性のこころとからだの相談」である。いずれもコメディカルが担当し，十分時間をかけて気軽に相談に応じられることが特徴である。「女性のこころとからだの相談」は女性のライフサイクル全般にかかわる諸問題について，助産師，保健師，看護師，作業療法士，理学療法士，臨床心理士などの専門職が相談内容に応じて対応している。

この「女性のこころとからだの相談」の相談業務は開始して一年を経過したので，この機会に問題を明確にし，これからの展開について検討することにした。

「女性のこころとからだの相談」の概要

1．女性のこころとからだの相談室の目的

1年前から行われていた「ママ・ベビー相談」に加えて，女性のライフサイクルに関わるこころとからだの問題をトータルシステムでケアする。

2．女性のこころとからだの相談室設置と相談業務の開始

1）設置時期と相談室の組織上の位置づけ

平成15年4月に設置された。組織上の位置づけは，相談室における相談の性質上診療科には属さないため病院長直属の相談室となっている。しかし，中央診療施設の一部局として位置づけられている。

2）相談業務の開始

相談業務開始は平成15年6月9日である。当初相談料について検討を行った結果，当分の間無料で相談を提供することにした。予約制の個別相談で，相談の時間帯は月曜日から金曜日の13：00～15：00の2時間である。しかし，相談者の多い領域は15：00以降に相談を受けることがある。一人当たりの個別相談の時間は相談内容によって異なり，30分～1時間である。

予約業務は保健学科の教員が行っており，火曜日と水曜日の13：00～15：00に予約を受け付けている。

相談内容の特徴と実績

1．各領域における相談内容

月曜日の思春期・青年期の心理的問題についての相談では，主に不登校や引きこもりの子どもを持つ母親が単独又は子どもと共に来院する。相談によって問題を整理し，当面の方針を立てることで安心感が高まり，親子関係の改善がみられ，子どもの状態も少しず

保健学科の教員による相談業務の内容と担当者

月日	担当教官	担当医師	主な相談の対象者	主な相談内容
月曜日	菅	(田原) 現在は十一	思春期，青年期にある女性と家族	思春期・青年期にある女性の心理的問題
火曜日	桂，赤澤，奥津，池添，我部山	田中，佐川	思春期，成人，更年期，老年期にある女性と家族	思春期の身体的諸問題，生活習慣病の予防，介護問題，更年期問題，中高年者の健康増進や体力づくりなど
水曜日	小西，加藤，大畑	(服部) 現在は加藤	児の発達に不安のある母親，家族	児の学習障害やコミュニケーションの問題などの発達障害，運動障害等
木曜日	日隈，柳吉，坪田，宮島	佐川	妊娠～子育期にある女性と家族 睡眠や住まいに関する問題を持つ女性・家族	妊娠から子育てに至る過程において，女性が遭遇する種々の問題 睡眠・住まいの相談
金曜日	岡島	佐川	育児中の母親，家族	母乳育児に関する相談および育児相談

京都大学医学部保健学科看護学専攻
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
Division of the Science of Nursing, School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kyoto University
受稿日　2004年9月17日

つ改善していくことが多い。また，自分の性格や対人関係などの悩みをもつ青年期女性の来談も多く，毎週，時間帯を延長して対応している。

火曜日の思春期・成人・更年期・老年期の相談では，更年期障害，乳房に関するトラブル，生活習慣病，在宅療養・介護に関する問題，高齢者の健康・体力作りといった様々な相談内容について，利用者が不安や心配を十分表出できるよう，ゆったりとした雰囲気作りを心がけながら相談を受け，高い満足を得ている。

水曜日の子どもの発達に関する療育相談では，発達の遅れや偏りの見られる子どもの相談を家族から受けている。相談内容は運動，言語，知的，社会発達等多岐にわたる。特に学習障害，注意欠陥多動性障害，アスペルガー障害等の軽度発達障害児の行動理解，学校支援や自閉症児のコミュニケーション障害に関する相談件数が多いのが特徴である。また，未熟児，脳性麻痺等による運動の遅れや重症児の家庭療育に関する相談に対しても年齢，障害の程度に関係なく相談に応じている。療育相談は週1回，2名しか相談を受けられない状況であり，現在予約が半年後までいっぱいとなっている。

木曜日の妊娠・出産に関わる妊婦・不妊・不育等の相談では，医療施設などを受診中の相談者が多い。相談内容は妊娠・分娩に関する思いや生活指導，不育症，不妊症，女性の健康に関する相談であり，治療や検査について理解と納得ができる説明を受けたいというものや，医療の場面では話しにくい相談者の不安や生活に関する相談である。

金曜日の母乳・育児相談では，母乳育児中の母親による母乳分泌促進または乳房トラブルに関する相談が中心である。乳房マッサージによる分泌促進，乳房トラブルの解決を図るが，同時に育児や産褥期の褥婦の身体に関する相談も多い。週1回の相談のため，必要に応じて他施設への紹介も行っている。

2．各領域における相談実績

平成15年6月の相談開始から平成16年7月末までの相談内容と相談延べ人数は下記の図1のとおりである。相談延べ人数は徐々にではあるが増加してきている。

今後の課題

1．広報の問題

相談室について平成15年11月に京大病院のホームページに掲載，平成16年3月に病院の外来棟などに相談室のポスターを貼付した。またカラー印刷の三つ折りパンフレットを作成し病院内に置いている。しかし，まだ相談室の存在が十分広報できていない。

2．相談内容による相談実績の偏り

思春期・青年期の心理的相談および療育相談は，すでに数ヶ月先まで予約される状況にある。しかし，その他の相談については相談時間に空きがある。広報が京大病院内に限られているため，京大病院通院中の妊婦・褥婦を対象にしている「ママ・ベビー相談」と相談内容が重なる妊婦・不妊，母乳・育児相談は，相談室の有用性を高めるため広報に関する工夫などが必要と考えられる。

3．相談予約業務の担当者について

予約業務については，相談内容によって担当者を決定する必要があるため，これまで教員が担当してき

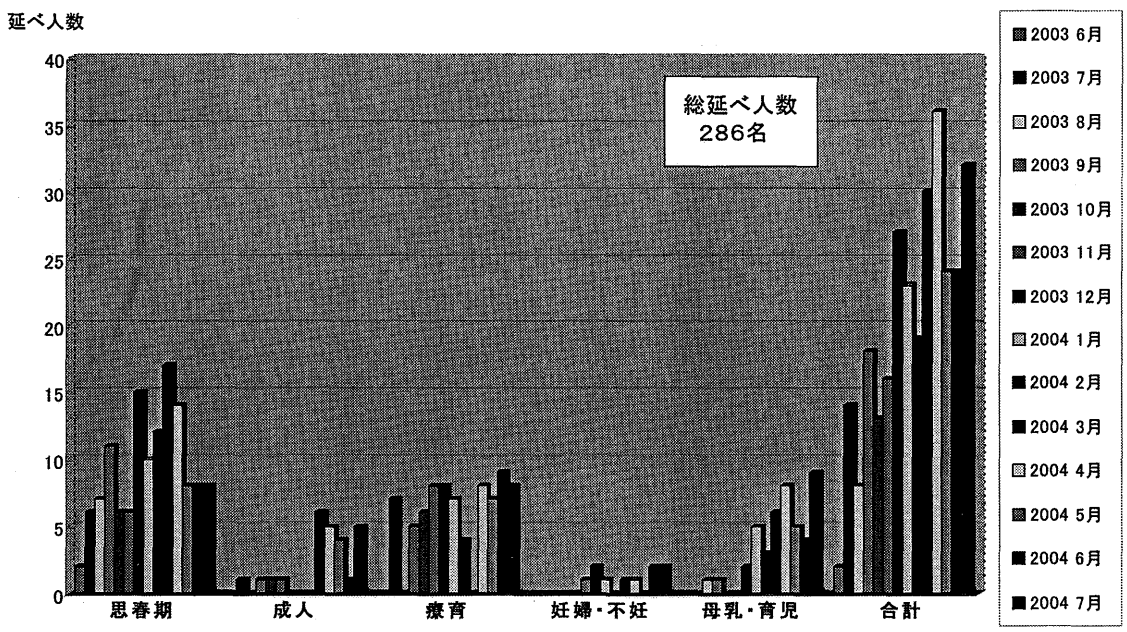

図1　月別相談延べ件数

た。しかし，教員の負担が大であり，今後の予約業務のあり方について検討する必要がある。

4．相談料金について

現在は相談を無料で実施しているが，私費料金の徴収を検討することが必要と考えられる。

おわりに

当相談室は，京大病院受診者だけでなく，他の診療施設の受診の有無にかかわらず，こころとからだに対して不安や問題を持つ女性・家族の相談を受けている。さらに直接相談したい方だけでなく，本院以外で相談を担当している専門家の方々の相談にも対応しており，直接的間接的に地域における女性の心身の健康増進に貢献している。

今後，質，量ともに充実した相談を提供できるように種々の課題について解決策を見出し，広く貢献できるようにしたいと考えている。